

## 北海道内臨床研修病院との協同による

### 地域医療・家庭医療教育プログラム要綱

#### 0. はじめに

北海道家庭医療学センター（以下、HCFM）は、平成8年に家庭医療専門医（通称：家庭医）の養成機関として全国ではじめて設立され、室蘭地区を中心に、更別村、寿都町、礼文町、上川町などの北海道各地における地域医療、家庭医療の実践を行ってきた。その中で最も重視してきたのは研修医の教育であり、初期研修期間中から日鋼記念病院にて各科ローテーション研修のみならず、地域での実践を通して家庭医療の教育を行い、その後さらに後期研修へと進む者に対しては、各地区にある地域診療所に半年～1年近くの期間在籍し、家庭医療指導医とともに都市部、地方をはじめとした医療のみならず、保健・福祉との連携の中で様々なニーズに対応できる家庭医を育て、全国へと輩出してきた。

#### 1. 趣旨

現在日本の医療システムの中で最重要課題の一つである地域医療においては、厚生労働省をはじめとして、北海道、さらには各地方自治体などが医師確保に奔走し、医療機関の集約化など様々な施策を推し進めようとしている。北海道内において平成17年度より総合医養成支援事業として後期研修を行う臨床研修病院に対する補助事業が進行している。また、医学生に対して医師免許取得後の一定期間、地域の医療機関への勤務を条件とする奨学金制度を導入。さらに平成21年度からは北海道と道教委が「地域医療を支える人プロジェクト」として道立高校に高校生の医学部受験を支援する特別コースを設ける方針を固めている。これらの政策の中で、初期研修に対する地域医療、家庭医療の教育が比較的手薄となっているのが現状であり、今後新たな枠組みを構築していくことは急務であると考えられる。

このような状況の中で、設立以来地域の第一線の診療所や中小病院にて活躍できる良質な医師を育ててきたHCFMは、北海道内の多くの臨床研修病院との連携をより強固にし、今後の地域医療に貢献することを目的に本プログラムを新設することになった。これにより現在各機関にて進行中の前述のプロジェクトとともに、初期研修医を対象としたプロジェクトとして、地域医療、家庭医療への質の高い教育を行うことにより、質の高い医師を養成し、楽しく笑顔で、地域住民のために働くことが出来るようサポートできれば幸いである。

なお、この要綱の中で用いるいくつかの用語は以下のように定義する。

- (ア) 家庭医療初期研修医サポートシステム：本プログラムにて運用されるシステム。
- (イ) 協力施設（群）：本システムに対しご協力いただく施設（群）。
- (ウ) 臨床研修病院指導医：各科の教育を行っていただく各協力施設における指導医。
- (エ) 家庭医療指導医：地域医療・家庭医療の教育を行う HCFM 内の指導医。
- (オ) 家庭医療研修医：本システムにて各協力施設において家庭医療研修医枠で研修を受けている初期研修医。

## 2. 概要

北海道内の全臨床研修病院を対象に、研修医募集定員の中に家庭医療研修医枠を新たに設置していただける施設を公募。ご協力いただける施設とはその研修医が在籍中、当センターと協力施設の提携を結ばせていただく。家庭医療研修医は所属する臨床研修病院にて各診療科のブロックローテート研修を行いながら、当センターが定期的に提供する家庭医療などを含んだ幅広い研修プログラム（後述）を並行して学習していく。並行した学習によって、病棟ローテート中も家庭医療・地域医療にふれる機会を与えて、地域における様々なニーズを感じ、それに対応する能力を身に付け、実践し、さらに振り返りを通して家庭医としての質の向上を行っていくことで、北海道の地域医療推進に貢献する。

## 3. 研修場所

### ・協力施設群

通常は協力施設群にて初期臨床研修を行っていく。

### ・HCFM 関連施設

- 本輪西ファミリークリニック
- 栄町ファミリークリニック
- 近文ファミリークリニック
- 更別村国民健康保険診療所
- 寿都町立寿都診療所
- 国民健康保険上川医療センター

後述の地域医療ローテーション、ワークショップなどにて研修を行っていく。

## 4. 期間

研修医の家庭医療枠在籍期間は臨床研修病院での初期研修期間（通常 2 年間）。

## 5. サポート内容

協力施設群へのサポートと家庭医療研修医へのサポートの 2 つから構成される。

## (ア) 協力施設群へのサポート

### 広報活動への協力

学生・研修医への PR 活動に対しての協力を行っていく。

1. 各種リクルートメント活動への協力  
道内、全国の学生・研修医を対象に行われるリクルートメント活動への協力を行っていく。
2. HCFM 活動における協力施設としての協力  
HCFM が運営するホームページで協力施設群の紹介を行っていく。  
各種活動の中で協力施設群の紹介などを随時行っていく。

## (イ) 家庭医療研修医へのサポート

### 研修内容

以下の目標に沿って 2 年間の研修を行っていく。

#### ① 一般目標

地域の診療所、もしくは中小病院において患者自身およびその家族に継続的かつ包括的なヘルスケアを提供することができる家庭医に必要とされる能力を身に付けるための足がかりを見出すことができる。

#### ② 個別目標

1. 患者中心・家族志向の医療を提供する能力の重要性を認識することができる。
2. 包括的で継続的、かつ効率的な医療を提供することの重要性を認識することができる。
3. 地域・コミュニティをケアすることの重要性を保健・医療・福祉の連携を通して認識することができる。
4. 家庭医に求められる良好な医師患者関係の基盤となる患者とのコミュニケーションを行うことができる。
5. 医療スタッフとの良好なチームワーク、ネットワーク形成の重要性を理解することができる。

### ③ 方略 (プログラム)

#### 1. ハーフ・デイ・バック (HDB)

初期研修 2 年間にわたり、週に一度半日の割合で行われる HCFM 関連施設での継続した家庭医療研修。外来・訪問診療研修、ケース・カンファレンス、家庭医療レクチャー、ビデオ・レビューなどが提供され、家庭医療研修医としてのアイデンティティを保ちながら研修できる。

#### 2. 地域医療ローテーション

2 年間で 2 ヶ月間の地域医療研修枠において当センター内のコアとなる診療所での短期集中研修を行う。

#### 3. 地域ワークショップ

土日を利用して HCFM 関連施設群のある地域において宿泊施設を利用して当センタースタッフ・フェローが提供する家庭医療についての学びを行う。そこでは当センター後期研修医も集合するので、年代の近い先輩との交流ができる。また、学生や他の研修医などの参加も呼びかけており、家庭医療を目指す同年代の人とも交流ができる。

#### 4. 指導医面談

年に 2 回、ハーフ・デイ・バックで連携している協力施設群と HCFM 関連施設群の指導医が面談を行い、研修状況を共有し、問題点があれば話し合う。2 回のうちの 1 回は学生・初期研修医部門の担当者が参加する。協力施設群で開かれている研修管理委員会に参加する場合もある。

### ④ 評価

#### 1. ハーフ・デイ・バックでの実地評価

(ア) 研修を通じて上記目標に対する理解度の評価を行う。

(イ) 形成的評価

#### 2. ポートフォリオの提出

(ア) 地域医療ローテーション期間中に作成

(イ) 地域医療ローテーション終了時に各施設にて発表し指導医の評価を行う。

(ウ) 形成的評価